

令和7年度

横見小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上を図るためのわかる授業づくり
～児童生徒の学びに向かう力を高める工夫～

校長

平島 裕志

学力向上推進員

西 優希

【委員】
教頭：鷺原有紀
教務主任：尾川弘美 研修主任：森本由佳
特別支援教育コーディネーター：杉本峯代

【小中連携における共通の取組】

年4回の連絡協議会を中心に、互いの授業実践や効果的であった取組事例を共有し、それらを自校の教育課程や指導方法の改善に反映させる。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能の習得にまじめに取り組む児童が多いが、習得率にはばらつきがある。 ●長文や問題の意図を正確に読み取る力や語彙量が十分ではなく、習得した知識や技能を適切に学習に生かすことができていない。	・基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付け、漢字や計算の問題で8割～9割以上の正答ができる。 ・初めての文章や設問を正確に読み取ることができる。	・読書タイムやことばの時間を活用し、多様な語彙にふれ、語彙の習得を図る。 ・漢字・計算・読み取りのドリル学習や毎日の音読などを継続して行う。 ・わかる授業のために、デジタル教科書を効果的に使う。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○音読や発表による表現には意欲的で、方法や手順がわかっている学習には、まじめに取り組んでいる。 ●自分の考えを筋道立てて説明したり、文章に書いたりして表現する力が十分とは言えない。	・根拠や理由、考えに至る過程を明確にしながら、筋道立てて自分の考えを表現し、伝え合うことができる。 ・様々な考えや意見を比較しながら、考えを深め、目的に合った表現方法を身に付けることができる。	・考える時間を十分に確保して、自分の考えを明確にできるよう、ワークシートやICT等を活用する。 ・自分の思いや考えを深めるために、スピーチやペア学習、グループでの話し合いなどで、他者の意見を取り入れる場面を増やす。 ・相手意識をもった表現ができるように、評価の場面や評価の視点を定めて、指導する。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○きまりを守って落ち着いた態度で学校生活を送り、与えられた課題にまじめに取り組んでいる。宿題をする習慣がほぼ定着している。 ●自分から課題を見付けて取り組むことが苦手である。集中が続かず、話を十分に聞くことができない児童がいる。	・基本的な生活習慣を身に付け、落ち着いて学習に取り組むことができる。 ・「家庭学習の手引き」をもとに、家庭学習に取り組むことができる。 ・自主学習ノートを使い、自分で考えて予習や復習を進んですることができる。	・睡眠時間の確保やバランスのよい朝食の大切さ等について、児童や保護者に啓発する。 ・学習の準備や正しい姿勢を習慣化させる、持ち物をそろえる、時間を守る等の学習習慣の定着を図る。 ・よい自主学習ノートを例示し、定期的に評価することで、意欲の持続を目指す。			